



北見 実敏

勤務先：

伊藤組土建株式会社
土木部工事課
〒060-8554 札幌市中央区
北4条西4丁目1番地

TEL 011-241-8296

FAX 011-251-4759

E-mail: kitami@itogumi.co.jp

専門：建設部門（施工計画、施工設備及び積算）

1. 自己PR：昨年、幸運にも第一次試験に合格し、「第一次試験に合格して」を投稿させて頂きました。先日の総会の席で広報委員の方から第二次試験の投稿もというお話があり、お世話になった先輩技術士の方々への謝意と、私と同じような立場で技術士を目指している方に少しでも勇気付けになればと思い、僭越ですが投稿させて頂きます。

私は、1960年（昭和35年）に小樽市で生まれ、置戸町で育ち、高校・大学を私の名前と同じ北見市で過ごしました。1983年（昭和58年）に札幌市の現会社に入社し、以来、現場業務一筋で現在に至っています。札幌市に本社があるのですが、地方での現場業務がほとんどで、高速道路・ダム・河川・競馬場・宅地造成・橋梁・農業土木工事と、年齢を重ねる毎に携わった施工業務の工種も増えて来ました。

手がけた工事には色々な思い出がありますが、中でも入社3年目の時に携わった長崎県での河川護岸工事は、経験の浅い当時の自分にとっては試練でした。有明海に流入する河川で、河口から20km程度上流なのですが有明海の干満の差の影響で約4mの水位差が生じる場所なのです。このため、河川が毎日逆流し、汐見表と観測データを元に水位差を予測しながらの工程管理が必要となり、本当にこの工事を完成させることができるのだろうかと思ったのです。九州弁の工事関係者とコミュニケーションをとりながら、自然に逆らわず、無事に工事を完成させたこの時の経験はその後の私の財産になっています。

2. 技術士試験について

私は第二次試験をルール改正移行期間の平成14年に一度受験していますので二度目の受験で合格したことになります。技術士へのあこがれは社会人になってから常に持ち続けていましたが、私の気持ちの中では同時に高嶺の花でもあり続けました。

受験の動機は社内の先輩技術士から、「技術士は技術者の最高ランクの資格でもあるが、技術士会には様々な分科会があり、企業・団体の枠を越えてたくさんの技術士が社会のために活躍している。」という話を聞かせて頂く機会があったことです。資格取得のみならず、そのような活躍の場が大変頼もしくもあり、これからの技術者にとって社会に対する技術士の懐の広い考え方や行動力が是非必要と考えたことがきっかけです。それ以後、先輩技術士から技術士についてすっかり洗脳され、数日後には容赦なく第二次試験の受験申込書を手渡されました。

しかし、第二次試験のハードルは高く、一回目の挑戦は筆記試験最中に不合格を確信するものでした。

翌年、第一次試験を受験し合格することができましたが、現在はこれら一連の受験プロセスがあったから次の第二次試験合格があったと確信します。限られた時間の中ではありますが、諦めずに技術士試験に対して前進し、技術士試験の受験プロセスを通じて技術士として必要な資質が養われ好結果につながったと思います。

3. 今後に向けて

今回の私の第二次試験合格は先輩技術士の方々のネットワークを通じた応援と励ましがあっての結果でもあります。不勉強な私のためにお忙しい時間を割いて論文の添削、模擬口頭試験および受験アドバイスを頂いた先輩技術士の方々に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

今後は、技術士の社会的責任をよく自覚し、技術士としていかに社会貢献して行くかが、私に与えられた課題と考えています。初心を忘れずにこの課題に取り組んで行く所存ですので、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。